

29. 農家住宅の住い方の現状と農家住宅設計指針について

宮城県農業改良特産課 吉田佐柄子

1. 農村における住生活の改善をはかるため、農家住宅と住い方の現状を理解し、地域に適した間取り計画の

指針を見出そうとするものである。

2. この調査研究は、農家生活技術連絡研究の一環として、農家生活に関する専門技術者の指導のもとに、3ヵ年にわたってすすめられているものの一部である。調査対象、宮城県における最も支配的な農家型であるところの水田単作経営で、経営規標1町～2町の専業農家層から、在来住宅及び新築住宅（昭和25年以降新築されたもの）をえらびこれにあてた。

調査地 宮城県河北町大谷地

調査方法 面接及び踏査法

調査時期 在来住宅 昭和34年1月

新築住宅 昭和35年3月

3. 新旧住宅における住い方、特に台所の機能を中心に分析を試みた結果、炊事、食事、接客の生活が空間的に分化えの傾向を示して来ていることをみとめた。しかし細くながめてみると、炊事諸行為について、食品の自給性収納の分割などから起る炊事空間の広がりをもとに縮小するかが今後の設計上の問題となってきた。